

HOPEplus

[市立芦屋病院だより]



No. 48

新任Drのご紹介

4月より新たな医師が着任しました



診療科
血液・腫瘍内科
専門分野
血液内科、腫瘍内科
やすみ まさと
安見 正人

先生から一言！

りんくう総合医療センターより赴任しました。これまで造血幹細胞移植を含めた血液悪性腫瘍の治療を中心に診療してきました。地域医療に貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



診療科
消化器内科
専門分野
胆膵疾患
なかずる しょういち
中水流 正一

先生から一言！

消化器内科の対象疾患は多岐にわたりますが、これまでの経験と専門性を活かして患者さんに最適な医療を提供し、地域医療に少しでも貢献できるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします。



診療科
消化器内科
専門分野
がん治療
せと かよ
瀬戸 華世

先生から一言！

本年4月より市立芦屋病院に赴任しました。専門は消化器内科で、主に進行がん患者さんのがん治療を中心に、診療に携わっております。がん治療は、患者さんの人生観や生活状況によって、その後の治療選択肢だけでなく生き方が大きく変わる分野でもあるため、患者さんに寄り添った医療を提供する事で、地域の皆様のお役に立てればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医
診療科
糖尿病・内分泌内科
専門分野
糖尿病・内分泌
かんどり
神取 あかり

先生から一言！

4月から市立芦屋病院へ赴任することとなりました。糖尿病・内分泌を専攻しております。未熟な点もあるかと存じますが、より良い医療を提供できるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします。



人工関節センターの紹介

整形外科 部長 **なわ げん 名和 厳**

変形性関節症

変形性関節症とは、関節の軟骨が損耗して痛みや機能傷害を起こす疾患で、原因はほぼ加齢による軟骨の劣化です。

段階は大きく分けて、3段階あります。

40～60歳頃 初期

軟骨の表面が毛羽立ち、クッションに微細な傷ができた段階。たまに痛い程度。

50～70歳頃 中期

軟骨が僅かに剥がれて欠損し、クッションの一部が崩壊した段階。一時的な激痛。

60～80歳頃 進行期

軟骨の欠損が大きくなり骨がぶつかり変形し、クッションがバラバラになった段階。歩行しにくくなります。



なわ げん
名和 厳

段階については個人差があり、怪我や酷使すると50歳で進行期になる人もいます。手術について、初期から中期には症状の軽減や進行抑止目的に関節鏡手術を行い、中期から進行した変形性関節症に対して、人工関節手術を行います。



さて、当院の人工関節センターですが、現在、股関節専門医師不在のため膝関節置換手術のみ行っています。スタッフは関節外科専門医師、経験豊富な手術室看護師、病棟看護師で構成しています。手術室はバイオクリーンルーム(BCR)を整備して6年前から運用しています。

最近では超高齢の方の手術も多く、「あと数年、自分の脚で歩きたい。」そうやって手術を受けられた90歳の患者さんは、「手術してよかった。」と言ってくださいました。

高齢化で80歳からの健康寿命が大切な時代。痛くて歩けず寝たきりになる前に「歩ける脚」を確保して生活の質を保つための手術です。認知症や、心臓病など基礎疾患が重度になると手術を受けられないことも多いため、そうなる前の80代前半までに手術を受けられることをお勧めします。

水曜日の午前中に膝関節外来を行っています。かかりつけ医がある場合は紹介状を持参しご来院ください。よろしくお願いたします。(かかりつけ医から、地域連携室へ予約依頼をお願いいたします。)

電子処方箋に対応しています！

電子処方箋とは、紙で発行している処方箋を電子的にもやり取りできるようにしたものです。複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報の参照、それらを活用した他院のお薬との飲み合せチェックなどができます。ご不明な点は、お気軽におたずねください。

お問い合わせは医事課まで



当院はマイナンバーカードを健康保険証として利用できます。

当院ホームページから連携医療機関のホームページへアクセスができます！！



パソコン、携帯電話、タブレットなどからご利用ください

QRコードはこちらです



【連携医療機関URLホームページ】
<https://www.ashiya-hosp.com/gairai/iryoukikan.html>

市立芦屋病院 無料Wi-Fiサービス



当院を利用される方の利便性向上のため、全棟において**無料Wi-Fiサービス**をご利用いただけます。

詳しくは病院ホームページまたは院内掲示にてご確認ください。

ねっと版糖尿病教室のお知らせ

閲覧自由

現在集合型糖尿病教室開催は中止しております。

そこで、糖尿病療養について

【ねっと版糖尿病教室】として情報発信をしております。
www.ashiya-hosp.com/kyoushitsu/tounyou.html



QRコードはこちらです

リハビリテーション科の紹介

整形外科 リハビリテーション科 部長 じょうやま 城山 すすむ 晋

リハビリテーション科は各診療科と連携して医師1名、理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、事務職2名の体制で運営しています。

市立芦屋病院は芦屋市内とその周辺地域の中で病気になったら最初に入院する病院、救急車で運ばれる方を最初に受け入れる病院、そして初期の治療や手術を行う病院としての役割を担っています。

まずはこの期間の治療を充実させるためのリハビリテーション(以下リハビリと略します)をお手伝いすることが我々の仕事です。例えば①脳梗塞のような手足の動きや食べることで、喋ることなど多様な機能障害を起こす病気の方のリハビリ②関節の病気や骨折などのケガで運動器の障害をかかえた方のリハビリ③大きな外科手術を受けた方の体力が早く回復するように行うリハビリ④肺炎などの内科の病気になった方が入院中できるだけ体力を落とさずに復帰できるようにするためのリハビリなどです。

次にリハビリは低下した機能を回復することと同時に現在の状態を維持することが重要な目標です。しばしばご高齢の方はリハビリを行っても肉体としては元通りの状態には戻らず、入院期間が長くなるとともにかえって衰えてしまう機能もあります。



リハビリテーション(英語でrehabilitation)の語源は、ラテン語のre(再び)+habilis(適した)から「再び適した状態になること」を意味するとされています。このことはご本人を訓練することだけでは無く、生活環境や社会に手を加えることも含んでいます。

現行の医療制度は病院の分業制を進めており当院のようなタイプの病院での入院期間はどんどん短くなっています。初期の治療を終えた後に病気の内容から長い期間の入院が必要な方、あるいは集中的により高いレベルの訓練を必要とされる方のためのリハビリは、近隣のリハビリを専門とした入院可能な医療機関と協力して行っていますので、病院を退院された後などの治療も含めて主治医や担当者でご相談ください。



前列中央
城山リハビリテーション科部長とリハビリテーション科スタッフ

公開講座

問合せ：芦屋市立公民館 0797-35-0700

時間 14時～15時30分

場所 芦屋市民センター401号室

参加費 1回 200円

日程	内容	講師
4月13日(土)	出張！糖尿病教室	市立芦屋病院 糖尿病・内分泌内科 紺屋 浩之 医師、糖尿病スタッフ
5月11日(土)	睡眠について	市立芦屋病院 緩和ケア内科 阪上 由香子 医師
6月8日(土)	胆石症、急性胆のう炎について	市立芦屋病院 外科 竹田 佑 医師

※市立芦屋病院ホームページをご覧ください。上記の芦屋市立公民館へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

事業管理者

のつづやき

市立芦屋病院 事業管理者 ^さ ^じ ^ふ ^み ^た ^か
佐治 文隆

巡り来る春

春です。ついウトウトして朝寝坊してしまう季節です。

春眠不覚曉
処処聞啼鳥
夜来風雨声
花落知多少

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少ぞ

春といえばなんといっても桜の季節です。
「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」は、中国の詩人劉廷芝(りゅう ていし)の七言古詩「白頭(しらがあたま)を悲しむ翁に代わる詩」の一節です。

古人無復洛城東
今人還對落花風
年年歳歳花相似
歳歳年年人不同

古人また洛城の東に無く
今人還た對す落花の風
年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じからず

「春はぐっすり眠れるものだから、夜があけたのに気づかず寝過ごしてしまった。あちらこちらから鳥の鳴き声が聞こえる。昨晚は、風や雨の音がしていたが、花はどれくらい落ちてしまっただろう。(現代語訳)」

唐の詩人孟浩然(もう こうねん)の詠んだ五言絶句は、春先の眠気をよく表していて、誰もが耳にしたことがあるでしょう。季節の変わり目に見られる睡眠のアンバランスは自律神経の乱れ、中でも「睡眠ホルモン」といわれるメラトニンが関与しています。メラトニンは朝起きて光が目に入ってから14~16時間後に脳の松果体から分泌されて、覚醒と睡眠を切り替えて眠りに誘います。したがってメラトニンの分泌を上手にコントロールすることで、質の高い眠りが得られるといいます。そのため時差ボケの予防などに服用されることもあります。

とはいえ、「春眠暁を覚えず」と朝寝を決め込むのも贅沢なひとときで、夏目漱石はその著「草枕」で、「猫はネズミを獲ることを忘れ、人間は借金のあることを忘れる」と「春は眠くなる」ことを正当化しています。うらかな春の朝寝坊の心地良さにはまったく同感します。

「昔、洛陽の東の郊外で花を見ていた人々の姿は今も無く、それに代わって今の人たちが花を吹き散らす風に吹かれている。来る年も来る年も、花は変わらぬ姿で咲くが、年ごとにそれを見ている人間は移り変わる。(現代語訳)」たしかに春が巡ってくると毎年毎年桜の花は同じように咲きますが、それを見る人の方は同じではなく、人の命の儚さを嘆くと解釈されています。それ故「禅語」として禅宗の視点で取り上げられてもいます。

しかし見方を変えれば、人間は成長するものですし、人は変わらなくてはいけないのです。そう思えばこの詩句の無情感も払拭され、希望が湧いてきませんか。大地震に襲われた能登半島でも桜の花が満開を迎えたことでしょうか。それを見る地元の人々に、気持ちを切り替えて復興に取り組まれるように、エールを送りたいと思います。

(2024. 4. 1)



事業管理者のつづやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内

●●●●交通案内●●●●

JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅から

- TAXI 約7分
- バス 約25分 (JR芦屋駅、阪急芦屋川駅のりば2番)
- 徒歩 約30分

※ 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

市立芦屋病院の理念

病院理念
あい (愛) ・ しあわせ (幸福) ・ やさしさ (優しさ)

基本理念
芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します

ASHIYA HEART & ART MENTAL MUNICIPAL HOSPITAL

日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G : Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
ホームページ <https://www.ashiya-hosp.com>